

拠点区分

黒松内つくし園法人本部

事業名 : 法人本部 奨学資金事業

1 事業方針

制度改正によりガバナンス強化や事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、公益的取り組みの充実などが求められ、制度に対応した組織作りと規程の整備や内部統制、本部機能強化に取り組んできました。本年度は、当法人が抱える多くの経営課題に向けて、新たな経営執行体制のもと中期事業計画を軌道修正し、事業方針を法人全体で共有して運営を行ってまいります。また、法人事業の再編と経営の健全化、内部統制の構築等の課題への対応、そして地域福祉の向上と、社会福祉法人としての役割と使命を果たすことができるよう、役職員一丸となって取り組んでまいります。

2 今年度の重点目標（抜粋）

- 1、利用者主体のより良い自立支援サービスを提供し、施設サービスの向上を図る。
- 2、法人中期事業計画を再編し、中長期ビジョンのもと事業展開を実施する。
- 3、法人各事業所の再編と経営の健全化・不採算事業の統廃合を検討・実施する。
- 4、人材の確保と定着、教育・研修強化。また、外国人介護職員の確保と教育、職場・生活環境の充実を図る（技能実習2期生7名と特定技能介護職員10名程度を確保）。
- 5、働き方改革への対応を進め、職員への待遇改善と福利厚生等を強化する。
- 6、内部統制・本部機能強化をさらに進め、法人一体運営への取り組みを行う。
- 7、内部監査体制を確立し、四半期ごとに重点項目を設定して監査を実施する。
- 8、地域貢献事業の継続と推進を図る。

3 予算

収入		支出	
科 目	[単位：千円] 予算額	科 目	[単位：千円] 予算額
経常経費寄付金収入	1,300	人件費支出	800
受取利息配当金収入	20	事業費支出	9,050
雑収入	17,520	事務費支出	27,718
施設整備等寄付金収入	5,000	支払利息支出	1,400
設備資金借入金収入	29,125	設備資金借入金元金償還支出	1,000
積立資産取崩収入	0	固定資産取得支出	29,625
事業区分間繰入金収入	4,000	長期運営資金借入金元金償還支出	4,530
拠点区分間長期貸付金回収収入	0	積立資産支出	2
拠点区分間繰入金収入	69,848	事業区分間・拠点区分間繰入金支出	59,500
収入合計 (A)	126,813	支出合計 (B)	133,625
【予算積算根拠、主な施設整備等】		予 備 費 (C)	0
※昨年度実績・今年計画を考慮して予算編成		当期資金収支差額 ① = (A) - (B) - (C)	△ 6,812
・外国人住宅整備事業の実施		前期末支払資金残高②	8,363
・勤怠管理システム導入予定(各拠点へリース料按分)		当期末支払資金残高①+②	1,551

4 職員数 【職員数】正職員9名（兼務）臨時職員2名（兼務）

5 その他 施設運転資金不足時には施設に短期貸付実施（信金短期借入）。泊特養むつみ荘に短期的に2,000万円以内の貸付予定
 俱知安地区、湯の里・黒松内、緑ヶ丘ハイツ他貸付予定

拠点区分 児童養護施設 黒松内つくし園

1 事業方針

児童養護施設は「里親委託の推進」「自立支援」「高機能化及び多機能化・機能転換」「小規模かつ地域分散化の推進」「安全・安心な養育」に向けた取り組みが求められている。このような中で今後の動向を的確に把握し分析しながら、当施設に今後の在り方の検討を進め定員の見直し、職員確保と育成・定着に向けた取り組みを職員と協議を進めていく。

また、職員研修を積極的に進め、多様化する利用児童の特性に合わせたサービスの向上を図ると共に、権利擁護に向けた取り組みを進めていく。

2 今年度の重点目標（昨年度からの改正点、新規事業など）

- (1) 利用者の確保と利用者サービス向上に向けた取り組み
- (2) 職員確保・育成・定着に向けた取り組み
- (3) 小規模かつ地域分散化、高機能化及び多機能化等に向けての対応の取り組み
- (4) 権利擁護の取り組み（研修会、意見箱、子ども会アンケート等）
- (5) 第三者サービス評価の受審

3 予算

収入	[単位：千円]	支出	[単位：千円]
科 目	予算額	科 目	予算額
児童福祉事業収入	282,511	人件費	160,313
経常経費寄付金収入	1,000	事業費	71,515
受取利息配当金収入	5	事務費	20,400
その他の収入	1,700	支払利息支出	912
施設整備等補助金収入	3,312	その他の支出	1,100
積立資産取崩収入	0	設備資金借入金元金償還支出	6,122
拠点区分間繰入金収入	0	固定資産取得支出	0
		ファイナンス・リース債務の返済支出	733
		積立金資産支出	4,046
		拠点区分間繰入金支出	15,156
収入合計 (A)	288,528	支出合計 (B)	280,297

【予算積算根拠、主な施設整備等】

1. 事業費は2019年度の最終単価で積算
2. 本園は定員80名 職員配置区分5.0:1
民改費 本園18%・小規模6名定員26%
3. 本園(月平均70名) 小規模(月平均6名)

予備費 (C)	0
当期資金収支差額 ① = (A) - (B) - (C)	8,231
前期末支払資金残高②	67,272
当期末支払資金残高①+②	75,503

4 利用者及び職員数

【利用者数】定員本園80名+小規模6名（月平均利用者数 70名/月+6名/月）

【職員数】正職員30名…年俸2名+賞与3ヶ月24名（採用予定3名含む）・賞与2ヶ月1名+55歳超2名
日給職員2名/パート職員14名（採用予定1名含む）/嘱託医1名

5 その他特記事項

※パネルヒーター工事1,200千円 ※軽車両更新(リース)2,000千円 ※パソコン・ソフト更新1,800千円(リース)

拠点区分 緑ヶ丘老人ホーム

サービス区分事業所

- (1) 養護老人ホーム 緑ヶ丘老人ホーム（特定施設入居者生活介護事業所・短期入所生活介護事業所含む）
 (2) 地域密着型通所介護事業 黒松内町ディサービスセンター
 (3) 居宅介護支援事業 黒松内つくし園居宅介護支援事業所
 (4) 訪問介護事業 黒松内つくし園ホームヘルパーステーション

1 基本方針

緑ヶ丘老人ホームは、長い伝統の中で大きく変革をします。利用者定員を108名から80名と変更し利用者処遇の向上を目指します。また、昨年法人内の緑ヶ丘ハイツ（特養）と併設したことでその機能を活かした施設づくりを進めて参ります。更には法人内高齢者施設の確固たる連携を目指し湯の里黒松内（老健）を含めた高齢者施設3施設間での関係性の強化を目指します。この関係を活かした情報共有、人材確保、利用者確保、経費面での削減を進め今まで以上の手厚いサービスの向上を目指したいと思えます。一方、拠点内の在宅福祉部門の通所事業、訪問事業、居宅支援事業においては、高齢者が安心して住み慣れた自宅で生活をしてゆく支援、ご家族も安心して任せられる事業所として一役を担う事を目指します。拠点全体として、地域からの一層の信用と信頼を得て黒松内町の高齢者福祉の中心的な役割を担えるよう日々研鑽に努めます。

2 今年度の重点目標

- (1) 特養との併設での効率的な運営への検討と実施
 (2) 法人内（養護、特養、老健）の高齢者施設連携に向けた効率的な運営への検討
 (3) 事故発生、身体拘束、感染症対策、食中毒防止、安全対策などリスク軽減に努める
 (4) 毎年実施しているサービス自己評価、利用者アンケート、家族アンケートを継続して実施
 多方面からのニーズを把握し高品質サービスの提供に努める
 (5) 地域貢献を目的とした事業を継続して社会との関わりを重視する
 (6) 各事業所において健全な経営と効率的な施設整備及び修繕

3 予算

収入		[単位：千円]	支出		[単位：千円]
科 目	予算額		科 目	予算額	
介護保険事業収入	110,688		人件費	176,375	
措置事業収入	145,173		事業費	63,370	
その他の事業収入	1,400		事務費	19,554	
経常経費寄附金収入	600		その他の支出	120	
その他の収入	584		設備資金借入金元金償還支出	550	
受取利息配当金収入	13		ファイナンス・リース債務の返済支出	1,407	
拠点区分間繰入金収入	1,500		積立資産支出	3,460	
収入合計 (A)	259,958		拠点区分間繰入金支出	6,000	
			支出合計 (B)	270,836	
			予備費 (C)	0	
			当期資金収支差額 ① = (A) - (B) - (C)	△ 10,878	
			前期末支払資金残高②	47,392	
			当期末支払資金残高①+②	36,514	

【予算積算根拠】

- 措置費：民改費管理加算Aランク16%
 事務費80名/事業費77名で算出

【主な施設整備】

- H9建物（南側）外壁塗装工事 2,500千円

4 利用者及び職員数

	利用者数		職員数（）内は兼務		
	定員	実員	正職員	臨時	パート
緑ヶ丘老人ホーム	80	80	28	4	10
黒松内町ディサービスセンター	18	—	3	1	3
黒松内つくし園居宅介護支援事業所	—	—	1 (1)		1
黒松内つくし園ホームヘルパーステーション	—	14	1	(1)	1
計			33 (1)	5 (1)	15

5 その他特記事項

拠点区分 福祉型障害児入所施設 しりべし学園

事業名：入所（30名）・短期入所（2名）・放課後等児童サービス（30名）

1 基本方針 しりべし学園

第1に保護者や学校等との情報共有を密にし、児童の特性を踏まえた個別支援を展開する。第2に各種研修会を積極的に活用し、職員の資質の向上、特に虐待に関する権利擁護意識の更なる醸成に努める。第3に年間を通じて人材確保に努め、適切な配置と働きやすい職場環境の醸成に努める。第4に成人寮との合同行事等、強みを生かした効率的な運営に努める。

南後志児童サービスセンター

第1に、保護者や学校等との情報共有を密にし、児童の特性を踏まえた個別療育・小集団療育を展開する。第2に、各種研修会を積極的に活用し、職員の資質の向上、特に虐待に関する権利擁護意識の更なる醸成に努める。

2 今年度の重点目標（昨年度からの改正点、新規事業など） しりべし学園

- ①安定経営に向けた取り組み（入所人員の確保と節約意識の徹底、児童相談所や各関係機関との連携強化）
- ②組織体制の見直しに向けた取り組み（永年勤続できる働きやすい職場の環境づくり）
- ③権利擁護・虐待防止に向けた取り組み（アンケート・職員研修・サービス評価自己評価の実施）
権利擁護や虐待防止等の重要な園内研修については、全従業員が参加・周知できるよう取り組む。
- ④職員の人材確保と資質向上、育成に向けた取り組み（新任職員研修・園内研修）
- ⑤居室担当職員、幹部職員、事務職員の役割の明確化（書類管理・実習窓口等）
- ⑥成人寮との連携強化（合同行事の実施、健康診断、往診等）
- ⑦物品購入時の手続き等の徹底（伺い書記手順等）

南後志児童サービスセンター

- ①地域との関係を強化し、児童の健全な育成に取り組む
- ②課題を地域や学校と共有し、連携して支援を行う
- ③個別療育、小集団療育の充実と強化
- ④保護者に対する相談機能の強化
- ⑤関係機関との連携強化
- ⑥虐待防止等の職員の資質向上に向けて効果的な研修等への参加
- ⑦令和3年度までに改築完了を目指して準備を進め、関係機関との連携を行う

※各事業所共通で必要な設備・環境整備を実施していく。

3 予算

収入

【単位：千円】

科目	予算額
措置費収入	69,430
障害福祉サービス等事業収入	51,691
その他の事業収入	13,257
借入金利息補助金収入	163
経常経費寄付金収入	149
受取利息配当金収入	47
その他の収入	2,495
施設整備補助金収入	3,400
積立資産取崩収入	500
拠点区分繰入金収入	900
収入合計 (1)	142,032

支出

【単位：千円】

科目	予算額
人件費	81,902
事業費	33,913
事務費	18,137
支払利息支出	82
その他の支出	500
設備資金借入金元金償還支出	3,670
固定資産取得支出	800
ファイナンス・リース債務	1,392
積立資産支出	2,000
拠点区分間繰入金支出	6,700
支出合計 (2)	149,096

【予算積算根拠・主な施設整備等】

措置入所 16名

契約入所 10名

で積算

処遇改善加算率： 6.2%

特定処遇改善加算率： %

4 利用者及び職員数

【利用者数】定員 30名

【職員数】正職員 17名／臨時職員・パート職員 2名

5 その他特記事項

公用車（エスクワア）リース満了による新たなリース契約

パソコンの入れ替え

予備費 (3)	0
当期資金収支差額	▲ 7,064
① = (1) - (2) - (3)	
前期末支払資金残高 ②	47,886
当期末支払資金残高 ①+②	40,822

拠点区分 障害者支援施設 しりべし学園成人寮

事業名：生活介護（70名）・施設入所支援（70名）・短期入所（2名）
しりべしワークセンターセオス（30名）・いずみホーム（25名）

1 基本方針

しりべし学園成人寮

第1に、利用者の障害や特性を踏まえ、年々、高齢化・重度化していく利用者に対して、安全、安心、楽しく生活できるよう個別支援を展開する。第2に、各種研修会を積極的に活用し、職員の資質の向上、特に虐待に関する権利擁護意識の更なる醸成に努めるとともに、重要研修の全従業員参加を徹底する。第3に、年間を通じて人材確保に努め、適切な配置と働きやすい職場環境の醸成に努める。第4に、学園との合同行事等、強みを生かした効率的な運営に努める。

セオス

利用者の高齢化に伴い、これまで個人の能力に応じた作業への取り組みを行ってきたが、今年度についても継続し、能力に応じた安定した参加ができるよう支援していく。また、作業収益のアップを目指すため、販売経路の拡充や支援の工夫に取り組んでいく。若い利用者の確保に取り組み、現状の作業が維持していけるよう取り組む。

いずみ

地域生活を快適に過ごすため、グループホームでのQOLの一層の充実を図り、利用者の特性や技能を生かした就労を通して共同し、自立した生活を送るための支援に努める。さらに、利用者の加齢に伴い、健康管理には十分配慮し、医療機関や関係機関と連携した支援と防災防火を踏まえた「安心・安全」な生活の充実に努める。

2 今年度の重点目標（昨年度からの改正点、新規事業など）

しりべし学園成人寮

- ①記録様式の見直しをすることで個別支援計画の充実を図り、業務の効率化を狙う。
また、業務の効率化をする事で職員のアンダーコントロールに繋げ、より利用者の特性に寄り添った支援を行う。
- ②障がいの重度化、高齢化に対応すべく、健康増進のための活動や認知症対策を講じる。
また、協力医療機関との連携や各種専門科との連携を強化し、安心出来る生活を提供する。
- ③虐待防止の意識向上や権利擁護の観点から、各種研修会に積極的に参加する。
また、権利擁護や虐待防止等の重要な園内研修については、全従業員が参加・周知できるよう取り組む。
- ④適切な業務量と時間管理を行い、残業の減少に努める。
- ⑤各種専門学校などの就職支援課等を訪問し、優秀な学生の獲得を目指す。

しりべしワークセンターセオス

- ①高齢化による体力、能力の低下に対して、作業内容の見直し、配慮を行う。
- ②利益を上げるために収支のバランスを考え、各作業を運営していく。
- ③利用者確保のため、養護学校、相談支援事業所等との連携を深めていくとともに、セオス内の体制を整備していく

いずみホーム

- ①健康管理
 - ・黒松内総合健康診査の受診
 - ・個々人に応じた医療機関への通院支援と対応の充実
- ②加齢の利用者に対する日中活動の再考
 - ・後期高齢利用者に対する支援の在り方を検討していく
 - ・日中活動参加への体力・意欲を考慮した支援の検討（セオスと連携）
- ③自治会活動「くまゲラの会」の充実
 - ・各種行事や旅行など利用者に合った内容を検討し実施する

※各事業所共通で必要な設備・環境整備を行っていく。

3 予算

収入 【単位：千円】

科目	予算額
就労支援事業収入	16,800
障害福祉サービス事業収入	314,891
経常経費寄附金収入	445
受取利息配当金収入	129
その他の収入	6,887
施設整備等補助金収入	6,360
積立資産取崩収入	3,000
拠点区分間繰入金収入	3,700
収入合計 (1)	352,212

【予算積算根拠・主な施設整備等】

生活介護90%・施設入所90%の稼働率で積算
セオス・いずみは現状維持で積算
福祉専門職員加算Ⅲで算定

4 利用者及び職員数

【利用者数】

成人寮 施設入所支援 67名
成人寮 生活介護 64名
セオス B型 28名
いずみホーム 24名

【職員数】

正職員（拠点） 25名
臨時職員（拠点） 13名
パート職員（拠点） 6名

5 その他の特記事項

公用車（成人寮アイシス）リース満了による新たなリース契約

公用車（セオスハイエース）リース満了により中古車購入

ハンコンの入れ替え（リース）
エアコンの設置

支出 【単位：千円】

科目	予算額
人件費	166,622
事業費	76,470
事務費	43,097
就労支援事業支出	21,902
支払利息支出	106
その他の支出	1,330
設備資金借入金元金償還支出	9,390
固定資産取得支出	3,676
ファイナンスリース債務返済支出	3,935
積立資産支出	3,900
拠点区分間繰入金支出	20,544
その他の活動による支出	1
支出合計 (2)	350,973

予備費 (3)	0
当期資金収支差額	1,239
① = (1) - (2) - (3)	
前期末支払資金残高 ②	129,106
当期末支払資金残高 ①+②	130,345

拠点区分

緑ヶ丘ハイツ会計

サービス区分事業所 緑ヶ丘ハイツ 緑ヶ丘ハイツ短期入所生活介護事業所
緑ヶ丘ハイツ診療所

1 事業方針

令和元年11月より念願でもありました新築の施設に皆様の協力もあり安全無事に移転致しました。諸問題は、山積しておりますが、魅力ある施設風土を目指し職員確保に努めると共に利用者の確保・コスト管理を徹底し運営理念に基づいた事業を執行していきます。

1. 人材確保に力を注ぐと共に職員一人ひとりの育成に努め、横の繋がりある活力溢れる職場作りに努めます。
2. 利用者、ご家族様、職員が満足出来る、満足頂けるサービスの提供に努めます。
3. 各種関係機関と連携を密にし利用者確保に努めます。
4. 地域に根差し、社会に貢献出来る施設として努めます。

2 今年度の重点目標

- (1) 安定したサービスの提供を図れるよう、人材確保に努めます。
- (2) 職員一人ひとりが、何事に於いてもやりがいを持つ事で役割を担い誇りを持ちます。
- (3) 職員の円滑なコミュニケーション、より良い職場環境を図るべく絆を大切に努めます。
- (4) 何事に於いても心を大切に感じ取る事の出来る職員育成に努めます。
- (5) 個々人の生活歴や習慣を考慮し、懇切丁寧な関係で自立した生活を支援します。
- (6) 業務の充実を図るべく、日々の見直し、分析を実施する事に努めます。
- (7) 職員一人ひとりが組織の活性化・経営意識しコスト等の見直し改善に努めます。

3 予算

収入

[単位：千円]

科目	予算額
介護保険事業収入	304,706
経常経費寄附金収入	550
受取利息配当金収入	2
その他の収入	794
施設整備等補助金収入	10,956
積立資産取崩収入	2,000
拠点区分間繰入金収入	15,800
収入合計(1)	334,808

【予算積算根拠、主な施設整備等】

- 1 稼働率 87.5%、介護度 3.6 で積算。
- 2 移転により室料変更
- 3 黒松内町より元金償還補助金 10,956 千円
- 4 設備資金借入金元金償還支出 27,372 千円

支出

[単位：千円]

科目	予算額
人件費支出	218,027
事業費支出	76,050
事務費支出	10,050
支払利息支出	2,401
その他の支出	101
設備資金借入金元金償還支出	27,372
ファイナンス・リース債務の返済支出	1,063
積立資産支出	2,000
拠点区分間繰入金支出	3,000
支出合計(2)	340,064
予備費(3)	0
当期資金収支差額 ① (1)-(2)-(3)	△5,256

前期末支払資金残高②	42,621
当期末支払資金残高①+②	37,365

4 利用者及び職員数

【利用者数】定員 80 名（平均利用者予定数 70 名/月）短期空床利用 5 名（平均利用者予定数 3 名/月）【職員数】正職員 39 名/臨時職員 7 名/パート 8 名

緑ヶ丘ハイツ拠点

緑ヶ丘ハイツ診療所会計

1 基本方針

常勤医師との連携により診療所の安定した運営に努めます。

2 今年度の重点目標(昨年度からの改正点、新規事業など)

- (1) 医療機関と連携し診療に努めます。
 (2) 感染症対策を徹底し予防・2次感染による拡大防止に努めます。

3 予算

収入

[単位:千円]

科目	予算額
医療事業収入	8,500
その他の事業収入	200
受取利息配当金収入	10
事業区分間繰入金収入	2,200
収入合計(1)	10,910

支出

[単位:千円]

科目	予算額
事業費支出	5,000
事務費支出	400
事業区分間繰入金支出	4,000
拠点区分間繰入金支出	0
その他の活動による支出	0
支出合計(2)	9,400
予備費(3)	
当期資金収支差額 ①=(1)-(2)-(3)	1,510

【予算積算根拠、主な施設整備等】

- 1 2019年度事業実績を基に算定

前期末支払資金残高②	7,410
当期末支払資金残高①+②	8,920

拠点区分 障害者支援施設 後志リハビリセンター

事業名：生活介護（40名）・施設入所支援（40名）・短期入所（3名）

1 事業方針

昨年9月より定員40名となり、個々の利用者に対してきめ細やかなサービスの提供に努めます。平均年齢62歳、平均障害程度区分は5を超え、胃ろう、専門科医への通院等、介護・医療業務の負担も年々増加傾向にあります。稼働率100%を目指し、安定した収入の確保を図ります。前年度は誤薬が多数発生しており、安全面に十分配慮するとともに、利用者の機能低下をいかに予防していくか、課題に取り組んで参ります。

福祉・介護サービス業務の重要性や将来性、やりがいや魅力を発信して人材確保に努めます。職員一人ひとりが、「昨日より今日、今日より明日」…と成長することを目指します。職員のスキルアップが「気づき」「改善」に繋がり、利用者のニーズや課題の把握、適切な支援の提供へと還元できるよう努めます。

未来を見据え、持続可能な施設運営を目指します。

2 今年度の重点目標（昨年度からの改正点、新規事業など）

- （1）利用者の意思を尊重した個別支援計画策定と生きがいを感じられる活動や機能訓練、栄養管理等の総合的な支援
- （2）職員一人ひとりの成長や能力の向上を意識した研修体制の構築
- （3）利用者の権利擁護・成年後見制度の利用促進・地域との交流や地域貢献事業
- （4）外国人技能実習生の計画に則った実習の実施と日常生活のサポート体制の確立

3 予算

収入 【単位：千円】

科目	予算額
障害福祉サービス事業収入	231,900
経常経費寄附金収入	200
受取利息配当金収入	10
その他の収入	541
施設整備等補助金収入	0
積立資産取崩収入	7,501
拠点区分間繰入金収入	0
収入合計 (1)	240,152

支出 【単位：千円】

科目	予算額
人件費	143,385
事業費	38,500
事務費	29,096
その他の支出	280
固定資産取得支出等	7,977
積立資産支出	3,250
拠点区分間繰入金支出	11,000
支出合計 (2)	236,008

【予算積算根拠・主な施設整備等】

収入：利用者月平均41名・稼働率97%で積算
 処遇改善加算6.9%+特定処遇加算1.9%
 施設整備：屋根防水工事、食堂ホールエアコン設置

予備費 (3)	2,000
当期資金収支差額 ① = (1) - (2) - (3)	4,664
前期末支払資金残高 ②	90,329
当期末支払資金残高 ①+②	94,993

4 利用者及び職員数

【利用者数】定員40名（平均利用者数41名/月）

【職員数】正職員25名/臨時職員・パート職員18名/嘱託2名

5 その他特記事項

■災害時対策に係る整備 ■空き居室の活用に向けた改修 ■収支状況とあわせた必要な修繕

拠点区分

認定こども園黒松内保育園

事業名 認定こども園黒松内保育園（教育・保育）、地域子育て支援センター

1 事業方針

法人の倫理綱領・定款理念・黒松内保育園基本理念と黒松内保育園の「三つの保育園」を大切にして事業を推進していきます。黒松内保育園は、平成21年に認定子ども園として黒松内町の子どもたちを養護・保育する唯一の施設として再スタートして12年目を迎えます。教育保育両方の機能を生かし、一人ひとりの発達に応じた保育計画に則った質の高い保育をこれまで以上に進めると共に保育指針・幼稚園指導要領等を踏まえた、保育課程・保育計画の実践を勧めます。

地域唯一の就学前施設としての役割を十分に果たせるよう関係機関と連携を深め、地域に根ざすよう努めます。また、よりよい環境で保育が進められるよう、環境の整備を行います。

定着してきた社会貢献・地域貢献事業の取り組みをさらに推進します。

職員にとって働く意義を持てる職場となるよう努めます。

2 今年度の重点目標

- (1) 保育指針・幼稚園指導要領・保育要領に則った保育課程のもと、保育実践を勧めていく。
- (2) 安心・安全な保育活動を行うため、日々の感染症対策を行う。
- (3) 黒松内町の「もの」「ひと」「しぜん」を有効に活用した保育活動を行う。
- (4) 職員の将来設計と力量向上のための研修を行う。外部講師を招聘し保育の質を高める。また、今後の保育園に必要な人材確保・育成に努める。
- (5) 黒松内町、小学校等の関係機関と連携し、保育・教育・子育て支援に努める（小学校→アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム作成）。
- (6) 地域貢献・社会貢献事業の取り組みを進める。
- (7) エアコン等の備品を交換する（予算化）。
- (8) 園内の壁修繕、雨漏り対策、ウッドデッキ塗装、外壁塗装、屋根トタン部分の錆止め塗布を検討。実施できるものから順次修繕を行う（予算化）。
- (9) メンタルヘルスケア・心の健康づくり活動を推進する。
- (10) 黒松内町地域子育て支援センター事業

3 予算

科 目	予算額
保育事業収入	84,962
経常経費寄付金収入	20
受取利息配当金収入	2
その他の収入	1,608
拠点区分間繰入金収入	
積立資産取り崩し	162
事業活動収入計(1)	86,754

科 目	予算額
人件費支出	57,188
事業費支出	12,330
事務費支出	10,226
その他の支出	1,306
設備資金借入金元金償還支出	100
固定資産取得支出	1,000
退職給付引当資産支出	1,300
拠点区分間繰入金支出	3,240
支出合計(2)	86,690

【予算積算根拠、主な施設整備等】

1. 園児数減少による収入減(2020.4.1)
未満児12名、3歳児10名、以上児34名
(教育15名、保育短時間18名 保育標準23名)
3. 事業計画(7)(8)による修繕・固定資産取得

予備費(3)	0
当期資金収支差額 ①=(1)-(2)-(3)	64

前期末支払資金残高②	20,195
当期末支払資金残高①	20,259

4 利用者及び職員数

【利用者数】定員65名（教育15名、保育50名）

【職員数】正職員6名／臨時職員1名／パート13名／嘱託医1名

5 その他特記事項

- ・給食栄養士については、湯の里黒松内 栄養士に委託する。

拠点区分 介護老人保健施設 湯の里・黒松内

1. 基本方針

大幅な介護保険改正が来年予定されております。私たちを取り巻く環境は大きく変化していきますが、社会的使命は変わらず老健施設としての『多職種協働、多様なニーズに多機能なサービスで応える』姿勢で事業展開を適正に保てるよう努力して参ります。そしてお客様の多様化するニーズをつかみ、質の高くきめ細かな配慮に心掛け、職員一人ひとりが能力を発揮し又、経営者の気持ちを忘れず研鑽し、皆様に信頼されていくよう努力致します。

2. 今年度の重点目標

☆ 支援 ☆

1. 個々人の生活歴や習慣を考慮し、懇切丁寧な関係で自立した生活を支援する。
2. 施設全体が明るく何でも申し出れる環境、職員はその方々の立場に立った援助を提供していく。
3. 業務等の充実を図るべく、日々の見直し、分析を実施する事に努める。

☆ 職員の育成 ☆

1. 職員のスキルアップに必要な教育、研修体系を整備する。
2. 職員の円滑なコミュニケーション、より快適な職場環境への改善等を含めた、より広い意味での心の健康づくりに取り組む。
3. 何事においても心を大切に感じ取ることの出来る職員の育成に努める。

☆ 経営の安定を図る ☆

1. 安定したサービスの提供を図れるよう、人材確保に努める。
2. 定期的に経営分析し、組織機能の評価、運営、コスト等の見直し、改善に努める。
3. 職員の適正配置を基に、各セクションの協力体制を確立し業務遂行にあたる。
4. 職員一人ひとりが、組織の活性化と経営に対する意識を持った行動に努める。

3. 予算

収 入		【単位:千円】	支 出		【単位:千円】
科 目	予算額		科 目	予算額	
介護保険事業収入	398,525		人件費支出	243,770	
経常経費寄付金収入	900		事業費支出	66,560	
受取利息配当金	2		事務費支出	43,562	
その他の収入	1,270		利用者負担軽減額	2,100	
積立資産取崩収入	8,200		支払利息	900	
事業区分間繰入金収入	0		その他の支出	24,149	
拠点区分間繰入金収入	1,240		設備資金借入金元金償還支出	12,210	
			固定資産取得支出	2,000	
			ファイナンス・リース債務の返済支出	3,972	
			退職給与引当資産支出	5,300	
			拠点区分間繰入金支出	3,000	
収入合計(A)	410,137		支出合計(B)	407,523	

【内訳】(算定根拠,主な施設整備等)

1. 収入は元年実績で積算(居室料値上げ含む)

2. 主な施設整備

①本館外壁塗装(黒松内町75%負担)

②エレベーター電池交換

③パルス180万 ④ボイラー修理実施

⑤井水汲み上げポンプ修理、電話機更新工事

※施設整備等積立金640万円を取り崩し、上記施設整備に充当

4. 長期借入返済

・福祉医療機構1,148万円(平成37年まで)・LED工事返済73万円

予備費(C)	0
当期資金収支差額	2,614
①=(A)-(B)-(C)	

前期末支払資金残高②	19,523
当期末支払資金残高①+②	22,137

4. 利用者及び職員数

【利用者定員】

長期入所 76名

短期入所 4名

通所リハビリ 20名

【年間利用者平均予定人員】

73.5 名

3 名

19.5 名

【職員数】 正職員 50名 パート職員 8名 計 58名

拠点区分 俱知安地区 就労支援系拠点

事業名 羊蹄セルフ、羊蹄、陽だまり、ありか、つくしホーム、和一なごみー

1 事業方針 夢を叶える為に【夢の実現に向けて、信頼される実践者になろう！】

社会福祉法人黒松内つくし園俱知安地区は、「雇用する側と雇用される側の集まり」ではなく、「福祉事業を通じ、社会貢献の志を同じくするもの同士が役割を分担して、世の中や地域、利用者に求められている支援や介護の提供を行うと共に、商品開発を経て新たな商品を創製していく人」の集合体である。したがって、俱知安地区職員は、利用者に対し、質の高い支援及び介護のもと、利用者個人の自立・安心した生活の実現を行い、地域住民より選ばれる事業をめざさなければならない。

2 今年度の重点目標

- (1) 組織強化：拠点本部の設立・事業所の統合・自主生産事業・受託事業の精査を行い、機能的で強固な組織づくりと、赤字の減少を図り安定した組織運営を目指す。
- (2) 人材育成：各管理者の自立した運営を行うための育成と、各事業所や地区分野別の研修会などを実施し、職員育成を重点的に行う。
- (3) 地域貢献事業実施強化：情報開示及び地域貢献事業に向けた取り組みと、現在行っている活動の継続性を行う一方で、積極的に新たな取り組みを行い、より地域に根付いた事業所として、地域住民から信頼される事業所を目指す。

3 予算

収入		支出	
科目	[単位：千円] 予算額	科目	[単位：千円] 予算額
就労支援事業収入	38,805	人件費支出	82,959
障害福祉サービス等事業収入	101,198	事業費支出	28,831
その他の事業収入	288	事務費支出	19,569
借入利息補助収入	0	就労支援事業支出	41,245
受取利息配当金収入	0	支払利息支出	396
その他収入	452	その他の支出	160
施設整備等補助金収入	0	設備資金借入金元金償還支出	2,762
拠点区分間繰入金収入	32,000	ファイナンスリース債務返済	636
収入計(1)	172,743	積立資産支出	1,769
		拠点区分間長期借入金返済	0
		拠点区分間繰入金支出	60
【予算積算根拠、主な施設整備等】		支出合計(2)	178,387
就労支援事業収入は売上目標値を計上		予備費(3)	0
		当期資金収支差額	△ 5,644
		① = (1) - (2) - (3)	
		前期末支払資金残高②	9,203
		当期末支払資金残高①+②	3,559

4 利用者及び職員数

【利用者数】 104名（就労支援系事業所の登録利用者数）

【職員数】 正職員 10名／臨時職員 10名／パート 10名／アルバイト 3名

5 その他特記事項

羊蹄セルフ送迎車両（リフト付き）整備。複合福祉施設屋上補修工事。

拠点区分

俱知安地区 在宅介護系拠点

事業名 グループホーム絆・縁、つくしんぼ

1 事業方針 ～夢を叶える為に～【統一理念の浸透とニーズの把握を】

社会福祉法人黒松内つくし園俱知安地区は、「雇用する側と雇用される側の集まり」ではなく、「福祉事業を通じ、社会貢献の志を同じくするもの同士が役割を分担して、世の中や地域、利用者に求められている支援や介護の提供を行うと共に、商品開発を経て新たな商品を創製していく人」の集合体である。したがって、俱知安地区職員は、利用者に対し、質の高い支援及び介護のもと、利用者個人の自立・安心した生活の実現を行い、地域住民より選ばれる事業をめざさなければならない。

2 今年度の重点目標

- (1) 組織強化：拠点本部の設立・事業所の統合・自主生産事業・受託事業の精査を行い、機能的で強い組織づくりと、赤字の減少を図り安定した組織運営を目指す。
- (2) 人材育成：各管理者の自立した運営を行うための育成と、各事業所や地区分野別の研修会などを実施し、職員育成を重点的に行う。
- (3) 地域貢献事業実施強化：情報開示及び地域貢献事業に向けた取り組みと、現在行っている活動の継続性を行う一方で、積極的に新たな取り組みを行い、より地域に根付いた事業所として、地域住民から信頼される事業所を目指す。

3 予算

収入		支出	
[単位：千円]		[単位：千円]	
科目	予算額	科目	予算額
介護事業収入	80,691	人件費支出	62,016
障害福祉サービス等事業収入	3,840	事業費支出	14,604
その他の事業サービス	0	事務費支出	12,094
借入利息補助収入	0	その他の支出	477
受取利息配当金収入	0	借入金元金償還支出	240
その他の収入	504	積立資産支出	1,273
施設整備等補助金収入	0	拠点区分間繰入金支出	48
拠点区分間繰入金収入	2,060		
収入計 (1)	87,095	支出合計 (2)	90,752
【予算積算根拠、主な施設整備等】		予備費 (3)	0
		当期資金収支差額	
		① = (1) - (2) - (3)	△ 3,657
		前期末支払資金残高②	16,557
		当期末支払資金残高①+②	12,900

4 利用者及び職員数

【利用者数】 98名（在宅支援系事業所の登録利用者数）

【職員数】 正職員 10名／臨時職員 4名／パート 10名

5 その他特記事項

拠点区分 京極地区 養護老人ホーム慶和園

事業名： 養護老人ホーム慶和園 ・ 短期入所生活介護事業

1 事業方針

昨年度進めたケアプランの勉強会、リハビリ体操など身体機能維持活動、養護・特養交換研修等の取組みを推進し、2020年度（令和2年度）はケアプランを中心とした多職種協働の強化と養護特養一体化による連携機能の強化、外国人労働者の活用、障がい者雇用による現場職員の負担軽減を進めていきます。厳しい時こそ、ご利用者の声を根拠として、各スタッフが前向きな姿勢でひとつになっていくことをめざして、運営テーマを『共にポジティブ』（その方の声からできること探し）と定めます。

2020年度 運営テーマ 『共にポジティブ』

～その方の声からできること探し～

2 今年度の重点目標

- (1) 支援計画（ご利用者ニーズを根拠に前向きな目標を設定）を礎に、ケア目標の達成を軸としたチームケアを強化します。
- (2) 次世代のリーダー育成について、ケアプランの勉強会を継続すると共に介護支援専門員の資格取得を目指します。
- (3) 高齢者雇用、障がい者雇用、外国人労働者など多様な働き手の確保と、同一賃金同一労働、子育て

3 予算

収入		[単位：千円]	支出		[単位：千円]
科 目	予算額		科 目	予算額	
老人福祉事業収益	86,110		人件費支出	42,308	
介護保険収益（居宅介護）	5,185		事業費支出	26,183	
寄付金収益・受取利息	51		事務費支出	27,401	
その他の収入（雑収益）	426		支払利息支出・その他の支出	12	
借入元金償還補助金収益	5,520		設備資金借入償還	5,900	
借入金利息補助金収益	1		積立資産支出	934	
			拠点区分間繰入金支出	410	
事業活動収入計（1）	97,293		支出合計（2）	103,148	
【予算積算根拠、主な施設整備等】			予備費（3）	0	
・ 養護は措置費単価Aランク（一般生活費98%で積算			当期資金収支差額		
・ 短期入所要介護度2 稼働率50%で積算			① = (1) - (2) - (3)		△ 5,855
			前期末支払資金残高②		13,370
			当期末支払資金残高①+②		7,515

4 利用者及び職員数

【利用者数】 養護 定員 35名 短期入所 3名（平均利用 45名/月）

【職員数】 正職員 5名（兼務職員 3名）／臨時職員 3名／パート 4名／嘱託 1名

5 その他特記事項

拠点区分 京極地区 ユニットケア慶和園

事業名 特別養護老人ホーム ユニットケア慶和園
短期入所生活介護事業（空床利用）
障害短期入所生活介護事業（空床利用）

1 事業方針

昨年度進めたケアプランの勉強会、個別機能訓練、養護・特養交換研修等の取組みを推進し、2020年度（令和2年度）はケアプランを中心とした多職種協働の強化と養護特養一体化による連携機能の強化、外国人労働者の活用、障がい者雇用による現場職員の負担軽減を進めていきます。厳しい時こそ、ご利用者の声を根拠として、各スタッフが前向きな姿勢でひとつになっていくことをめざして、運営テーマを「共にポジティブ」（その方の声からできること探し）と定めます。

2020年度 運営テーマ 共にポジティブ ～その方の声からできること探し～

2 今年度の重点目標

- （1）ケアプラン（ご利用者ニーズを根拠に前向きな目標を設定）を礎に、チームケア（看取りケア・栄養ケア・個別リハビリ）を強化します。
- （2）次世代のリーダー育成について、ケアプランの勉強会を継続すると共に介護支援専門員の資格取得を目指します。
- （3）高齢者雇用、障がい者雇用、外国人労働者など多様な働き手の確保と、同一賃金同一労働、子育て代の働きやすさ等、受け入れ体制の整備を強化します

3 予算

収入		支出	
科目	予算額	科目	予算額
介護保険事業収入	262,101	人件費	164,388
補助金事業収入	1,000	事業費	50,068
経常経費寄付金収入	600	事務費	36,179
受託事業収益	40	利用者負担軽減額・支払利息・その他の支出	3,282
受取利息配当金収入	1	借入償還元金	4,588
雑収入	50	ファイナンス・リース債務返済支出	1,074
積立資産取崩収入		器具及び備品取得支出	1,000
拠点区分間繰入金収入	410	退職給付引当資産支出	3,886
事業活動収入計（1）	264,202	拠点区分間繰入金支出	4,000
【予算積算根拠、主な施設整備等】		支出合計（2）	268,465
・平均介護度3.0 稼働率95%で算出		予備費（3）	0
・ウッドデッキ購入		当期資金収支差額 ① = (1) - (2) - (3)	△ 4,263
		前期末支払資金残高②	87,936
		当期末支払資金残高①+②	83,673

4 利用者及び職員数

【利用者数】定員60名（平均利用者数 57名/月）

【職員数】正職員（内兼務職員1名）27名/臨時職員11名（内兼務職員1名）
パート19名（内兼務職員5名）

5 その他の特記事項

拠点区分 泊村養護老人ホーム むつみ荘

事業名 : 泊村養護老人ホームむつみ荘 ・ 短期入所生活介護事業

1 事業方針

昨年度は、ケース会議の定例化を進め多職種協働による支援計画作成を行うことができました。2020 年度（令和 2 年度）は、現場支援員が支援計画を念頭においたサービス提供を行い、ご利用者への支援目標の達成を念頭にチーム力を高めていきます。また、ペアユニットでの連携を強化し業務内容の見直し行うなど、人員配置を見通した効率的な仕事や現場スタッフの働きやすい環境づくりに着手します。

2020 年度 運営テーマ ‘支援目標の達成’

2 今年度の重点目標

- (1) 多職種協働で支援計画の短期目標の達成を目指す、強いチームをつくりまします。
- (2) ペアユニットでのユニット運営を進め、業務内容の見直しを図り効率的な仕事をすすめます。
- (3) ケアプランの勉強会を開催し、その理解を深めると共に介護支援専門員の資格取得者を増やします。
- (4) ボランティアを定期的に受け入れる機会をつくり、訪れやすいむつみ荘をつくりまします。

3 予算

収入		支出	
科 目	[単位：千円] 予算額	科 目	[単位：千円] 予算額
老人福祉事業収入	83,029	人件費支出	60,867
その他の事業収入	18,743	事業費支出	22,661
経常経費寄附金収入	10	事務費支出	20,848
受取利息配当金収入	1	その他の支出	60
その他の収入	1,601	設備資金借入金元金償還支出	210
積立資産取崩収入	300	積立資産支出	1,440
拠点区分間繰入金収入	0	拠点区分間繰入金支出	1,000
事業活動収入計 (1)	103,684	支出合計 (2)	107,086
【予算積算根拠、主な施設整備等】		予備費 (3)	0
・ 民改費Bランク積算		当期資金収支差額	
・ 生活管理指導短期宿泊事業 7床入居 (空室3床)		① = (1) - (2) - (3)	△ 3,402
		前期末支払資金残高②	10,859
		当期末支払資金残高①+②	7,457

4 利用者及び職員数

【利用者数】 養 護 定員 35 名 短期入所 2 名 (平均利用 34.5 名/月)

【職員数】 正職員 9 名 (兼務職員 2 名) / 臨時職員 1 名 / パート 5 名 / 嘱託 1 名

5 その他特記事項

拠点区分 泊村特別養護老人ホーム むつみ荘

事業名 泊村特別養護老人ホーム むつみ荘
短期入所生活介護事業（空床利用）

1 事業方針

昨年度は、ケース会議の定例化を進め多職種協働によるケアプランの作成の仕組みをつくることができました。2020年度（令和2年度）は、ケアプランを中心とした多職種協働によるチームづくりを強化し、ご利用者の短期目標の達成を念頭にチーム力を高めていきます。また、ペアユニットでの連携を強化し業務内容の見直し行うなど、人員配置を見通した効率的な仕事や介護スタッフの働きやすい環境づくりに着手するほか、稼働率の向上を図り収支バランスの改善を図ります。

2020年度重点課題 ‘ケア目標の達成’

2 今年度の重点目標

- (1) 多職種協働でケアプランの短期目標の達成を目指す、強いチームをつくります。
- (2) ペアユニットでのユニット運営を進め、業務内容の見直しを図り効率的に仕事をすすめます。
- (3) ケアプランの勉強会を開催し、その理解を深めると共に介護支援専門員の資格取得者を増やします。
- (4) ボランティアを定期的に受け入れる機会をつくり、訪れやすいむつみ荘をつくります。

3 予算

収入		支出	
科 目	[単位：千円]	科 目	[単位：千円]
	予算額		予算額
介護保険事業収入	246,864	人件費	175,650
経常経費寄付金収入	200	事業費	46,839
受取利息配当金収入	1	事務費	39,985
その他の収入	3,494	利用者負担軽減額	3,600
積立資産取崩収入	500	その他の支出	120
拠点区分間繰入金収入	5,000	設備資金借入金元金償還支出	410
		積立資産支出	3,840
事業活動収入計(1)	256,059	拠点区分間繰入支出	1,000
		支出合計(2)	271,444
【予算積算根拠、主な施設整備等】			
・平均介護度3.6 稼働率92%で算出		予備費(3)	0
		当期資金収支差額	
		①=(1)-(2)-(3)	△ 15,385
		前期末支払資金残高②	33,490
		当期末支払資金残高①+②	18,105

4 利用者及び職員数

【利用者数】定員60名（平均利用者数 57.6名/月）

【職員数】正職員(内兼務職員1名)32名/臨時職員6名（内兼務職員1名）
パート17名（内兼務職員4名）

5 その他の特記事項